

埋蔵文化財発掘調査ニュースNo.12

まつ お こ ぼ くん
松 尾 古 墓 群

(遺物編)



2005年3月
那覇市教育委員会

松尾古墓群ニュース

(1) はじめに

今回は、松尾古墓群出土の遺物を紹介いたします。

松尾古墓群では、総数1,787点の遺物が出土しました。沖縄産陶器がその殆どを占めています。この内、蔵骨器は1,074点でした。このほか、花生けや香炉・徳利・煙管など、墓に関連するとみられる遺物が得られています。

(2) 遺物について

蔵骨器にかかれた銘書によって、それらが作られ、使用された年代がわかります。

松尾古墓群出土の蔵骨器の中で確認できる最も古い銘書は、乾隆八（1743）年です（第1図1、写真1）。この他、乾隆貳拾三（1758）年、嘉慶十八（1813）年、道光五（1825）年の銘書もあります。一方、大正五（1916）年や昭和四（1929）年のように比較的新しい時代の銘書もあります（第2表）。

蔵骨器は、その形によっていくつかの種類に分けられます（第1表）。

まず、材質によって石製と陶製に大別され、形によって家形・甕形・筒形に分類されます。さらに大きさや、文様によって細分します。

第1図5・6のようなタイプは比較的古いタイプで、ポージャータイプ（第1表ではⅢ類相当）と呼称されています。主に1700年代に作られていたようです。

しかし、これらは今回発掘調査した2基の墓から出土したのではなく、調査開始前の工事中に、偶然、近くから発見されたものです。

今回の調査では2基の墓しか確認されませんでした。本来はもっと多くの墓があったようです。偶然発見されたポージャータイプの蔵骨器は、近辺にあった墓の中に納められていたものだと考えられます。

今回の調査で最も多く得られたタイプは、Ⅴ類です。蔵骨器の器体に貼付や線彫りなどの文様が施されたものです（写真9参照）。これらは、ポージャータイプより新しく、1800年代を中心に作られ使用されたようです。

この他にも、甕を蔵骨器に転用したものなどもあります（写真10～12）。

1号墓は墓室の中にも蔵骨器が残されており、さらに墓室床に土坑が掘られ、蔵骨器が埋められていました。墓室内から出土した蔵骨器の銘書は、大正五（1916）年から昭和二十六（1951）年のものがあります。土坑内から出土した蔵骨器の銘書は、嘉慶十八（1813）年から昭和十六（1941）年のものがあります。戦争中に蔵骨器を墓から外に運び出し、戦後に土坑内に埋めて、再び墓を使用したと考えられます。

蔵骨器の銘書には「我喜屋」や「照屋」などの名前が読み取れます。また、「…通事親…」などの文字もあります。このことから、この

墓は通事（通訳官）を務めた家柄の墓であったと考えられます。

銘書は黒字だけでなく、赤字で書かれたものもあります。

1・2号墓の明確な造墓年代はわかりません。しかし、1号墓は出土した蔵骨器の銘書により、1800年代半ばには造られていた可能性があります。

1号墓の墓庭左隅からは、碗や水注・合子などが出土しました(第1図7～10、写真13～16)。これらは、墓に関連する何らかの儀式で使用され、埋納されたと考えられます。

2号墓は、墓室土坑内から1基の蔵骨器(第2表No.81)が出土しました。しかし、銘書が無く、明確な年代はわかりませんでした。

(3) おわりに

那覇市内にはいくつかの古墓群の存在が知られています。松尾古墓群周辺にも城岳古墓群やナイクブ古墓群などがあります。これらは、現在では公園へとその姿を変えつつあり、昔日の面影は失われつつあります。

那覇市は、埋立てや大規模な開発によって大きくその姿を変えてきました。もはや往時の姿を想像しがたいほどに変貌しています。そのような中で、僅かに残された遺跡を調査することは、古来の姿を知るための貴重な機会です。このような機会を捉え、精査・研究することによって、より往時の那覇の姿を窺い知ることができます。そして、それを後世に伝え残すことが現在の私達に必要なとされていることではないでしょうか。

第1表 蔵骨器分類表

名称又は仮称	身	蓋
I 石製家形	方形で4脚付	入母屋
II 陶製家形	"	a. 切妻 b. 入母屋(御殿形) c. 寄棟(民家形)
III 陶製無頭甕形(ボージャ)	1. 中型(高さ50cm前後) 2. 大型(高さ60cm前後) 3. 小型(高さ40cm前後)	a. 宝珠形つまみ b. 饅頭形つまみ c. つまみなし
IV 陶製円筒形	1. 円筒形で3脚付 2. 円筒形で高台付	a. 円形屋根で宝珠形つまみ b. ボージャタイプで宝珠形つまみ
V 陶製有頭甕形	1. 文様なし(ボージャに近い) 2. 貼付文(") 3. 貼付文 4. 貼付文+線彫文 5. 線彫文	a. 約5mm以上の「き」 b. 約5mm未満の「き」 c. 「き」なし
VI 陶製軒付甕形	1. 降棟に獅子等の装飾があるもの 2. 降棟に装飾のないもの	a. 降棟に獅子等の装飾があるもの b. 降棟に装飾のないもの

第2表 蔵骨器観察一覧

遺器 (南) 土器 上部器
中器 土器
下部器 下部器 (陶)

遺器	発掘時期 探検番号	番号	出土地点	身-蓋	名称又は形状	形式分類	遺量	別名	文様	陶種	備考	氏	署名	名称	高麗式去年	高麗式今年	備考						
1	第1回 写真1	1	東屋一基	蓋	陶製無面彫形	Ⅱb	104 285	—	—	—	内) 朝鮮六年八月廿日署名 陶工塚上土器部(古) 陶器部 口。		署名因				乾隆9 (1743)						
2	第1回 写真2	2	東屋一基	蓋	陶製無面彫形	Ⅱc	79 121 328	—	—	—	内) 〇〇〇〇〇〇〇〇年咸寧十一月 三日署名〇〇。							乾隆23(1758) 成慶 高麗23(1818) 成慶					
3	第1回 写真3	3	東屋一基	蓋	陶製無面彫形	Ⅱc	— 96	6	縦彫 額付	—	内) 朝鮮六年八月六日一 古高麗工塚。			古高麗				乾隆23(1758)					
4	第1回 写真4	4	東屋一基	蓋	陶製無面彫形	Ⅱc	910 520 215	—	—	—	内) 〇〇〇〇〇〇〇〇口、男口、蓋。												
5	第1回 写真5	5	東屋一基	身	陶製無面彫形	Ⅱ1	227 178 213	—	—	—	外面に マンガン								外面観上蓋記号あり				
6	第1回 写真6	6	東屋一基	身	陶製無面彫形	Ⅱ1	248 498 222	3	—	—	内) 土器部〇〇〇〇〇〇月六日、古 高麗式。			古高麗									
7	写真7	1号	墓室内土 坑一基	蓋	陶製有面彫形	Vb	— 168 340	—	—	—	外面に マンガン			金				1825	嘉慶18(1813) 道光5 (1825) 道光20(1840) 道光23(1843) 咸豐2 (1852)				
8	写真8	1号	墓室内土 坑一基	蓋	陶製有面彫形	Vb	— — 332	497	—	—	外面に マンガン			金					1863	同治2 (1862) 同治3 (1864)			
9	写真9	1号	墓室内土 坑一基	蓋	陶製有面彫形	V4	335 —	35	縦彫 額付	—	外面に マンガン				1897	1897			1897	光緒23(1897) 光緒25(1899) 土坑土器も内函 之同又蓋あり			
10	写真10	—	東屋一基	身	私用儀付器	—	290 373 219	—	—	—	—									外面観上蓋に記号あり			
11	写真11	—	東屋一基	身	私用儀付器	—	— — 200	—	—	—	—												
12	写真12	—	東屋一基	身	私用儀付器	—	200 —	—	—	—	—										額部に〇の記号あり		
13	—	—	東屋一基	蓋	陶製有面彫形	Va	84 108 208	—	—	—	外面に マンガン												
14	—	—	東屋一基	蓋	陶製有面彫形	Vb	— — 143 294	—	—	—	外面に マンガン												
15	—	—	東屋一基	蓋	陶製無面彫形	Ⅱ	— — 200	—	—	—	—												
16	—	—	東屋一基	蓋	陶製無面彫形	Ⅱ	— — 235	—	—	—	—												
17	—	—	東屋一基	身	陶製有面彫形	V4	— — 948 254	—	—	—	縦彫 額付	—										額部不明で判 読不能	
18	—	—	東屋一基	身	陶製有面彫形	V4	230 422 190	—	—	—	縦彫 額付	—										額部不明で判 読不能	
19	—	—	東屋一基	身	私用儀付器	—	— — 172	—	—	—	縦彫 額付	—											
20	—	1号	墓室内土 坑一基	蓋	陶製有面彫形	Vc	— — 48 161	27	—	—	外面に マンガン											朝鮮26(1951)	
21	—	1号	墓室内土 坑一基	蓋	陶製有面彫形	Vc	— — 90 126 270	28	—	—	外面に マンガン			高麗式								朝鮮15(1840)	
22	—	1号	墓室内土 坑一基	蓋	陶製料付彫形	Vla	280 150 370	31	縦彫 額付	—	外面に マンガン											大正5 (1916) 西照 大正4 (1915) 乙卯 大正8 (1919)	
23	—	1号	墓室内土 坑一基	蓋	—	—	— — —	—	—	—	外面に マンガン											破片のため、判 読できず	
24	—	1号	墓室内土 坑一基	蓋	—	—	— — —	—	—	—	外面に マンガン											片片のため全部不 明	
25	—	1号	墓室内土 坑一基	蓋	—	—	— — —	607	—	—	外面に マンガン											片片のため全部不 明	
26	—	1号	墓室内土 坑一基	身	陶製有面彫形	V4	— — —	—	—	—	縦彫 額付	—											正) 高麗式一具女器付一、次 女口口。

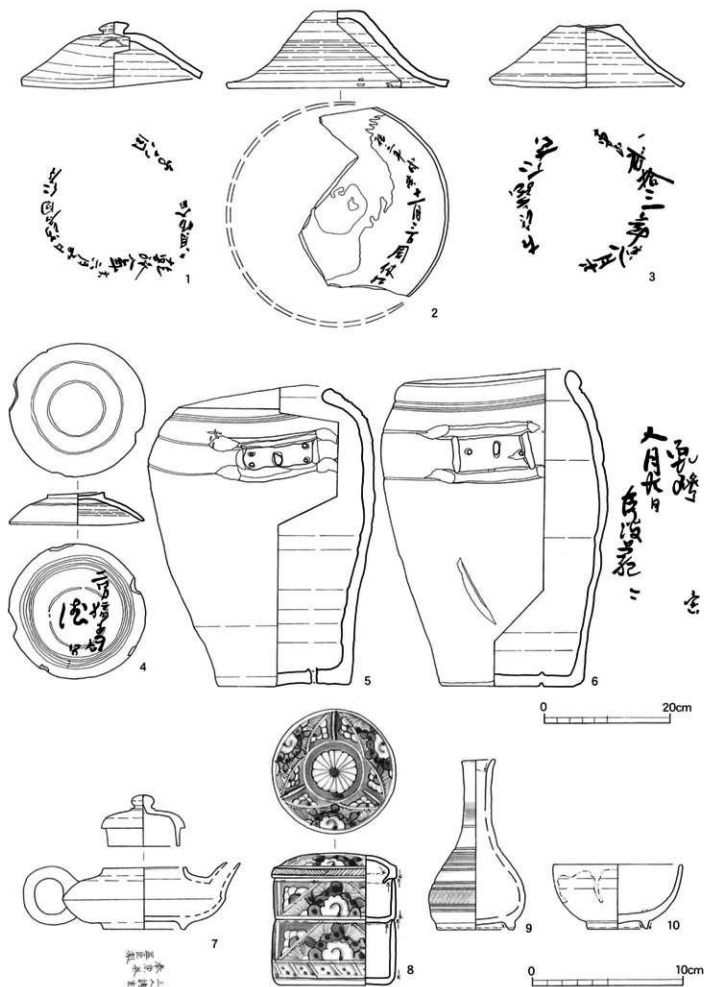
年度	発掘番号 調査年度	発掘位置	出土地点	品名	名称又は名称	形式分類	法量	対高	文様	特徴	調査	氏名	名称	発掘年度	西暦発掘年	備考	
83	-	2号墓	墓底	蓋	陶製無形蓋形	Ⅲ	-	-	-	-	-					つまみの取柄は平明	
84	-	2号墓	墓底	蓋	陶製有形蓋形	Vc	139 280	-	-	外面に	(内)半部は蓋 040-1口給事甲子館四門口 一組六月十日供養奉大開一。					大正13(1924)甲子	
85	-	2号墓	表段	蓋	陶製料付蓋形	Vb	239 150 292	-	-	縁付	内外面に マンガン						
86	-	2号墓	表段	蓋	-	-	138 -	-	-	縁形 縁付	外面に マンガン						
87	-	2号墓後 遺物 集積部	蓋	陶製有形蓋形	Va	125 283	104	-	-	外面に マンガン	(内)無形蓋 妻ウシ合蓋。		照屋				
88	-	2号墓後 遺物 集積部	蓋	陶製有形蓋形	Vb	156 300	-	-	-	外面に マンガン	040-1。						内面に文字の一語 とみられるものや ある。縁部は内 め本脚
89	-	2号墓後 遺物 集積部	蓋	陶製有形蓋形	Vb	-	-	-	-	外面に マンガン	040-1瓦男0000-。-1口 0-。-1口 0-。						
90	-	2号墓後 遺物 集積部	蓋	陶製有形蓋形	Vc	-	34 197	-	-	外面に マンガン	(内)大正十三年六月節奉日開 無通光。		照屋				大正13(1924)
91	-	2号墓後 遺物 集積部	蓋	陶製有形蓋形	Vc	87 86 188	-	-	-	外面に マンガン	040口蓋形。						供養以後にも文字 があるようだが不 明
92	-	2号墓後 遺物 集積部	蓋	陶製有形蓋形	Vc	-	-	-	-	外面に マンガン	040-1口五口0-。						
93	-	2号墓後 遺物 集積部	蓋	陶製有形蓋形	Vc	-	285	-	-	外面に マンガン	-						
94	-	2号墓後 遺物 集積部	蓋	陶製有形蓋形	Vc	-	304	-	-	外面に マンガン	-						
95	-	2号墓後 遺物 集積部	蓋	陶製有形蓋形	Vc	286 129	-	-	-	外面に マンガン	-						
96	-	2号墓後 遺物 集積部	蓋	陶製料付蓋形	Va	-	322	-	-	縁形 縁付	外面に マンガン	(内)三男0口-。昭和十三年 0-。					昭和13(1938)
97	-	2号墓後 遺物 集積部	蓋	-	-	-	-	-	-	外面に マンガン	040-1口-。						6月のため調査が あるようだが調査 中
98	-	2号墓後 遺物 集積部	蓋	-	-	-	-	-	-	外面に マンガン	040口蓋形-。昭和九-。						昭和9(1934) 6月のため詳細は 不明
99	-	1号墓と2 号墓の間	蓋	陶製無形蓋形	Ⅲ	-	205	-	-	縁形	-						
100	-	2号墓後 遺物 集積部	蓋	陶製有形蓋形	V4	322 370 190	-	-	-	縁形 縁付	外面に マンガン						
101	-	2号墓後 遺物 集積部	蓋	陶製有形蓋形	V4	298 -	-	-	-	縁形 縁付	外面に マンガン	(内)昭和拾参年一。昭二女カナ 供養一。		1938			昭和13(1938)
102	-	2号墓後 遺物 集積部	蓋	陶製有形蓋形	V5	182 293 106	-	-	-	縁形	外面に マンガン	(内)大正十一年開解口天目六 月開通光。		照屋			大正11(1922)
103	-	2号墓後 遺物 集積部	蓋	陶製有形蓋形	V5	218 -	-	-	-	縁形	外面に マンガン	(正)無形蓋 次男0-。					
104	-	2号墓後 遺物 集積部	蓋	陶製有形蓋形	V5	284 580 203	87	-	-	縁形 縁付	外面に マンガン	(内)無形蓋 ウシ合蓋。		照屋			
105	-	2号墓後 遺物 集積部	蓋	陶製料付蓋形	V1	-	-	-	-	縁形 縁付	外面に マンガン	(正)蓋0口-。					
106	-	2号墓後 遺物 集積部	蓋	陶製料付蓋形	V1	-	205	-	-	縁形 縁付	外面に マンガン	-					

□: 文字があるが、不明瞭で判読できないもの
○: 文字の形が判読しづらいもの
□内の文字: その文字であるとうと推測されるもの
赤字の調査: おで書かれた調査

第3表 陶磁器観察一覧

(単位: cm)

発掘番号 調査年度	名称又は名称	口径	高さ	直径	胎土	調査	備考	出土地点 出土層位
第1段 7 号 頁 13	中国産?陶磁水注	55	64	55	赤褐色 黒色	製部に強い線画があり、扁平な形状である。外表面に文字が施されている。		1号墓後左面
第1段 8 号 頁 14	本土産磁器合子	79	89	72	白色 褐色	二重構造の合子である。外面は底面を除く全面に文様が施されており、内面に赤い部分と黒い部分とが施されており、縁部を飾っている。		1号墓後左面
第1段 9 号 頁 15	沖繩産陶磁器蓋	23	114	51	黒白色 褐色	縁部から製部にかけて全縁が施され、赤と黄色で彩色されている。胴下部には黒線法による文様がある。		1号墓後左面
第1段 10 号 頁 16	沖繩産陶磁器蓋	86	41	90	白色 褐色	中々小振りの碗である。縁が1段入が認められる。文様はない。内表面に赤褐色による磁跡あり。		1号墓後左面



第1圖 陶製無頭甕形藏骨器：蓋(1~4)・身(5・6)、水注(7)、合子(8)、瓶(9)、碗(10)

出土品

写真1

陶製無頭甕形藏骨器 (蓋)



写真2

陶製無頭甕形藏骨器 (蓋)



写真3

陶製無頸甕形藏骨器（蓋）



写真4

陶製無頸甕形藏骨器（蓋）



写真5

陶製無頸甕形藏骨器（身）



写真6

陶製無頸甕形藏骨器（身）



写真7

陶製有頸甕形藏骨器（蓋）



写真8

陶製有頸甕形藏骨器（蓋）



写真9

陶製有頸甕形藏骨器(身)



写真10

転用蔵骨器（身）



写真11

転用蔵骨器（身）



写真12

転用蔵骨器（身）



写真13

(左上) 中国産? 陶器製 水注
(左下) 外底面



写真14

(右上) 本土産磁器製 合子
(右下) 内面



写真15

沖縄産施釉陶器製 瓶

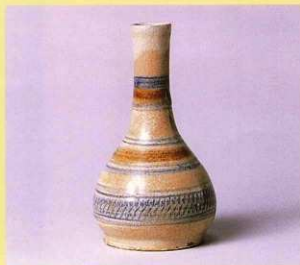
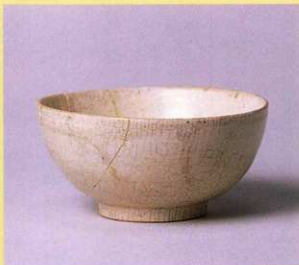


写真16

沖縄産施釉陶器製 碗





発行／那覇市教育委員会 〒900-0022 沖縄県那覇市樋川2-8-8
TEL (098) 853-5776
編集／那覇市教育委員会文化財課
印刷／(株)東洋企画印刷